

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町内清掃の参加。納涼会、敬老会の参加で地域に解け込み交流を図り、安心した生活ができる様になっている。	○	当ホームの祭りや、町内の行事や会合には数人に限られているが、序々に人数を増やして行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで理念を唱和し、意識の確認を行っている。月2回の会議でも意識の確認を行っている。	○	唱和するのみに終わらず、日々の個別ケアにつなげて行く努力をする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行しているホーム便りにホームの理念や役割を記載し、又代表者による運営推進会議によって、より深く理解できるようにしている。行事等にはできる限り参加できるようにしている。	○	更に地域の理解を得るためには、町内会の会合等に参加する機会を作り理念の浸透につなげたい。
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	①顔を見かけたらすすんで挨拶をするように努めている。 ②自治会に入っており、「地域の祭り」や自治会の旅行等に参加している。	○	①行事等で顔見知りを増やし、気軽にホーム内にも立ち寄ってもらえるようにしたい。 ②自治会の行事には小人数しか参加できていないので、少しでも多い人数で参加できるようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会に入っており、地域の祭りや町内の旅行等に参加している。	○	なかなか参加できない方も少しずつでも何か参加できるようにしていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々を招いて納涼会や敬老会などを行っている。	○	これからも地域の高齢者の方々との交流を大切にしていきたい。(外庭の桜の花見、ボランティア活動への声かけ) 介護教室の開催(リハビリ体操への呼びかけ等)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開かれたホームを目指し、地域との交流を図る目的でホーム主催の納涼会に老人会の参加があった。	○	老人会を通して町内の方々との交流が深まる様に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	機能訓練などについての質問を頂きました。	○	週1回の整形外科受診や、月2回のOTによる訓練を受けているが、毎日1人ひとりに合わせた訓練ができるように支援していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外ではなかなかできない。	○	市町村の担当者の方々とも情報交換などができる機会を持ちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している人居者がいますがこの制度について職員が皆、理解しているとは思えない。	○	職員が成年後見制度などについて理解できるように学ぶ機会を持ちたいと思う。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者→職員と順次研修会に参加し知識を深めて、防止に努めている。 申し送り時に管理者より防止の徹底が促されている。	○	月2回のミーティングで内容を盛り込むと共に、勉強会も設けたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項説明書をもとに説明し、理解を得た上で、手続きを行っている。	○	より理解を得るために、見えやすい位置に掲示している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けると共に意見箱を設置。運営推進委員会参加の家族に意見や要望を尋ねている。	○	①見やすい場所へ意見箱を設置し利用を勧めている。 ②意見・苦情が出た場合は、速やかに検討し対応を行っていききたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は、ホームだよりや来訪時に報告している。金銭管理は、来訪時にサインをもらっている。職員移動は運営推進会議でのみ報告している。	○	職員移動に関する報告は全家族には行っていないためホーム便り等で報告するようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置と共に、運営推進会議参加の家族代表に意見を聞くようにしている。 家族来訪時、気付く事はないかとの声かけをしている。	○	家族が何でも言える様な雰囲気これから心がけていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から各自に声かけしている。また、ミーティング時に問いかけ、意見等を聞くようにしている。	○	親睦会等で交流を深めていき、意見や要望も出せる端にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ、職員の配置を組んでいる。定期受診、入浴等に応じ職員の増員をしている。	○	状況に応じての配置を崩さないよう継続していききたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応にあたるよう、できる限り固定化している。	○	離職した職員と同等程度の職員の確保に努めている。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の資料を掲示し、皆さんが研修を受け育成できる環境を作っている。	○	運営者からの声かけには応じる様に勤務調整をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、ケアマネ研修会、運営委員会などを実施し、他のグループホームと交流をとっている。	○	グループホーム連絡協議会の親睦会に職員も参加できる様にしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	それぞれが日頃思っている事を話す機会を作りストレスをためない様になっている。	○	職員同士の親睦の機会を作るとともに、事務上の悩みを1人で抱えこまないようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	参考書の斡旋や研修会出席への声かけをして向上心を高めている。	○	いろいろの研修会へ積極的に参加しケアの統一を図り、ホーム全体のサービスの向上につながるようにしたい。
	<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者及び職員は面談時より語りかけ、より良い人間関係を築くように努力している。	○	ホーム内見学や電話での問い合わせには積極的に応じる来訪しやすい状況を作っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	いつでも応じられる様に体制を整え、話しやすい雰囲気を作っている。	○	ホーム内見学や電話での問い合わせには積極的に応じる来訪しやすい状況を作っている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームのサービス内容の説明や介護の方法の説明を行っている。他に色々のグループホーム以外のサービスの説明をしている。	○	個々人に合ったサービスをすすめている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と連絡を密にし、不安の除去、仲間作りの支援や何らかの役割を持ってもらっている。	○	家族との連絡を密にし両方で支援をする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で物の大切さ、平和の大事さ、命の尊さなどを学んでいる。掃除、洗濯や台所を一緒に行って、支えあっている。	<input type="radio"/>	前記分を今後も続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とも情報交換を行い共有している。	<input type="radio"/>	情報交換をさらに充実させていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	総方の立場にあわせた対応をしている。	<input type="radio"/>	今後も関係作りに努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の知人、他への再来の声かけを行っている。	<input type="radio"/>	行きたい場所への支援を行いたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの旨を力に応じたレクリエーションの提供と共同作業で仲間意識を高めえいる。	<input type="radio"/>	続けていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された後にもTELや便り等で来訪の声かけをしている。	<input type="radio"/>	自宅訪問や入居施設への訪問をしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表及び本人家族を取り入れ、ケアカンファで職員全員で検討している。	○	職員全員の参加で協議できるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやサマリーの家族からの情報提供で把握に努めている。	○	アセスメントの充実を図り、より良いケアに努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の介護の中での観察、職員の情報の共有で把握している。	○	職員の観察力をより深めて、記録充実を図りたい。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や悩みを聞き出し本人にあったプランの作成している。	○	日々の介護上での職員の意見交換(ミーティング)を密に、より良く毎日の生活を支援できるように取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状の悪化、身体機能低下等の時は本人や家族関係者と話し合いプランの変更をしている。	○	プランの充実を図りたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護の記録 日々の様子を他の職員が見てもわかるよう記録している。	○	記録の簡素化に努めて介護の充実につなげたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を優先し、病院受診や外出支援等で支援をしている。		本人や家族の希望になるだけ対応していきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じ、民生委員やボランティア、警察、消防と協力しながら支援している。	○	今後もよりよい関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	退所時や退所後には、居宅ケアマネや他事業所と話し合い本人にあった支援を行っている。		今後も続けていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	金銭管理などで協働している。	○	必要に応じ行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に応じ、支援している。	○	継続していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じアドバイスを頂いている。	○	今後もよりよい関係を築いていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回正看護師が健康管理を行っている。職員に看護師も働いている。	○	これからもこの様にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけの医療機関との連携が相談に努めている。	○	今後も続けていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	そういう時期になってから話し合いを持ち、職員間に伝えている。	○	できるだけ早い時期に終末期の要望を尋ねて方針をたてる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携により、できることは支援し無理な時は紹介などを行っている。	○	今の体制の維持
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いがされており、ダメージを防ぐことに努めている。	○	これからも行っていく。
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が敬意の念を持って接しており、入居者のプライバシーを守っている。	○	人格、個性を尊重して対応していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が十分に意思表示ができない場合には表情や反応で組み取り、できる方は意見や希望を聞き納得して生活されるように支援している。	○	家族からも入居者の意見や希望を聞きながら支援したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長所、得意なこと、興味のあること等など、職員がみつけそれを日常的に取りいれている。	○	業務をこなすことを優先することがあるので、入居者のペースで暮らせるよう支援したい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2回/月、美容師の来訪にてカットしてもらい、行きつけの美容院を希望される方には家族、職員で送迎対応している。	○	パーマ、染め等を希望される時には、送迎にて美容室に出向く。また、一人ひとりの個性を大切にしてお洒落や身だしなみを支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わうメニューを工夫し、一人ひとりの好みを考慮しながら摂ってもらっている。食器洗い、準備などできることをそれぞれに行ってもらっている。	○	各テーブルの中に職員が座り、メニューや食材の話をしながらかつ楽しい雰囲気の中で食事が摂られるよう心掛けている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	昔よく食べたものや希望のものを聞き、おやつ等に取り入れ支援している。	○	水分摂取の少ない方には、好みの飲み物を把握し飲用してもらっている。各入居者の希望をもっと聞き支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェックシートで排泄パターンを把握しプライバシーに配慮しながら、トイレ誘導にて排泄を支援している。	○	便秘予防の為に食物や運動、マッサージ等を取り入れている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調に合わせて、個別ケアと安全性に配慮して実施している。また、同姓介助にも対応している。		入居者の方の希望に応じた入浴回数の実施には至らないものの、足浴、必要時にはシャワー浴や清拭で対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムの確保のため、日中は離床と昼寝を組み合わせ、体操や散歩をしたりして体を動かし、安眠できるよう支援している。		入居者個々の睡眠パターンを把握しているが夜眠れない方、昼夜逆転の方の安眠策を検討中である。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別的に好みに応じて支援している。(大正琴、メダカの飼育、編み物、読書、囲碁、将棋)など	○	今後も本人の意見にそった支援をしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方は本人に持って頂いており、自由に使われている。管理が無理な方は、ホーム事務所預かりとして希望時必要な物はいつでも購入できるようにしている。	○	買い物同行して決まった金額を各自持って頂き、好きな品物の購入やレジでの支払いを支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調などを考慮し、数人で近所への散歩、ホームの駐車場、買い物同行、病院受診等をしている。	○	一人ひとりの希望にはそってできない部分もあるが、体調や気分を考慮しなるべく外出できるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員又は数人とドライブ、食事、散歩等の支援をしている。	○	今後も体調管理をしながら続けていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室にTEL、又は携帯電話を持っている人もあり、事務所内線でも本人希望時即対応している。手紙は届いたら本人にすぐ渡すようにしている。手紙を書くための便箋やハガキ類の提供もしている。	○	今後も続けていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間の戸締り時間まではいつでも訪問し、居室やホーム内での自由に過せるようにしている。お茶の接待もしている。	○	お茶等の接待は今後も続けていきたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所にマニュアルを置き、いつでも職員が見れるようにしており身体拘束の意味を理解している。	○	全ての職員が今後も研修会などの参加でさらに理解を深めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに職員が入居者と過ごす時間を多くしている。	○	職員が気がつかない内に外出する方もおられるので、近所との交流を通して鍵のないケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホームには見守りや声かけで自由に過していただいているが、職員は常に気配り、目配りをしている。	○	職員同士声かけあい、事故がないようにしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの能力に応じて、居室に置いたり、事務所で預ったりと状況に合わせて支援している。	○	必要時は職員が同席し、危くない範囲を把握して自由に使っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一人ひとりがその人に合った介護方法を習得し支援している。	○	食前の嚥下体操、タバコの管理、服薬管理、レク体操、外出支援等、今後も続けていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを事務所に設置し、いつでも見れるようにしている。又、消防署の指導を受け応急手当や訓練方法を学び、職員同士手当ての仕方を勉強している。	○	研修会等に参加を促し職員の知識を高めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議時に協力をお願いしている。	○	日頃の訓練を確実に行うと共に近所との交流を通し協力体制につなげたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	必要時はTEL等で現在の状況の説明及び今後起こりえるリスクについての説明や相談をし対応策を協働で話し合っている。	○	説明時は、カルテに話した内容等を記入し、職員全員が把握できるようにしている。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定及び気分不快時に実施。業務日誌、介護日誌での記録や申し送り、職員間のコミュニケーションに情報の共有に努めている。		変化時に家族にも連絡をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師でセットしている。内容は薬剤情報書で職員は把握しており、服薬時には再度薬の確認をし与薬している。病状変化時には責任者に報告し指示受けている。	○	個人が服用されている薬の目的、副作用など今以上に理解できるように勉強会などをしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に食物繊維、野菜を取り入れており、水分摂取量のチェックをし不足時には飲水をすすめている。毎日、体操や散歩、歩行訓練等その人に合った運動を支援している。	○	自然排便ができるように献立や飲水、運動に力を入れたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの生活習慣に合った方法で実施している。自立に向け見守りや声かけで行ってもらっている。(義歯は各自で洗浄して頂き、毎晩洗浄液につけ消毒している。	○	現在、毎食口腔ケアをされていない方についても、可能なことを探し出し、少しずつでも毎食後の口腔ケア及びうがいができるように支援していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の状態、食事量、水分量がひと目でわかる様、用紙を用いて確保に向けて支援している。	○	偏食された場合は、栄養のバランスも考え支援していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにそった対応、予防を実施している。発生時には職員全員で勉強会をしている。	○	必要時には、勉強会を頻回にし、一人ひとり感染症に対する認識を高めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎日掃除を行い、清潔に努めている。、台所に入るときは、手指を洗って消毒しエプロンを替えている。調理器具は、器具にあわせて消毒をしている。食材は、ほぼ毎日買い物をし、新鮮で安全なものを提供している。	○	新鮮かつ安全で美味しい料理の支援を続けていきたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を広くしており、又出入り口は花やベンチにより入りやすい環境を作っている。建物奥には庭園があり、四季おりおりの草花を植え家庭的な雰囲気作りに気をつけている。	○	桜の時期には庭園の開放をしたいと考えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを2重にし音や光を調節している。季節の草花や掲示物などを取り入れ折々の写真を貼り季節感を取り入れている。	○	家族と話し合い、家庭で使用しているものなどを安全面に配慮しながら、もっと取り入れて居心地良く過ごせる空間を作っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルをホールや廊下に置きそれぞれ自由に過ごしていただけるようにしている。	○	限られたスペースを十分に使う工夫をしていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や家族の来訪時には、使い慣れたものの持込の理由を説明し持参してもらっている。個別性のある居室作りをしている(位牌、仏壇、神棚等自由に持ち込んでおられる。)	○	今のまま続けていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内に室温計の設置。ホール内にも室温計を設置している。調節に努めている。	○	換気や空調の配慮の為、月1回の清掃(フィルター交換)をし常に清潔に心がけている。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室には手すりを設置し、安全に歩行できるようにしている。台所は自由に出入りでき、能力に応じて使用ができるようにしている。	○	一人ひとりの力が発揮できる場を作っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の能力に応じ、自立に向けて(茶碗洗い、洗濯物たたみ、掃除機かけなど)支援している。混乱や失敗があったり予測される時には、職員が中に入り声かけや見守りを行っている。	○	その人に合った役割を見つけて自立できるように支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りにはプランターやベンチを配置し、水やりやお花観賞を楽しんでいる。駐車場を歩行訓練に使用し楽しみながらリハビリを行っている。	○	裏庭や庭園の活用を前向きに考えていきたい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 ○ 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない